

# 現場へ!

## 「最大150メートル」日テレ資料波紋

### 再開発 都心「番町」で②

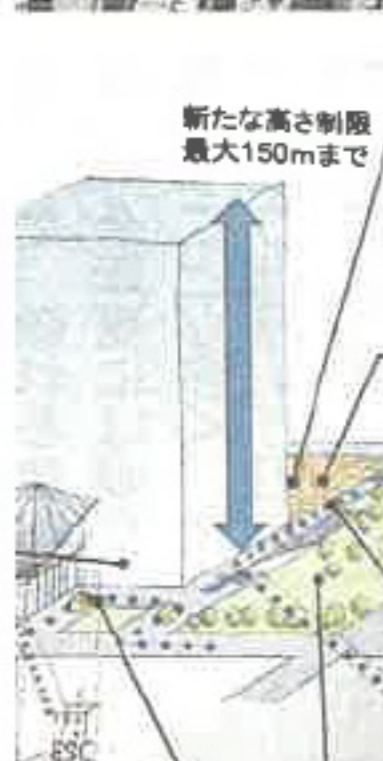
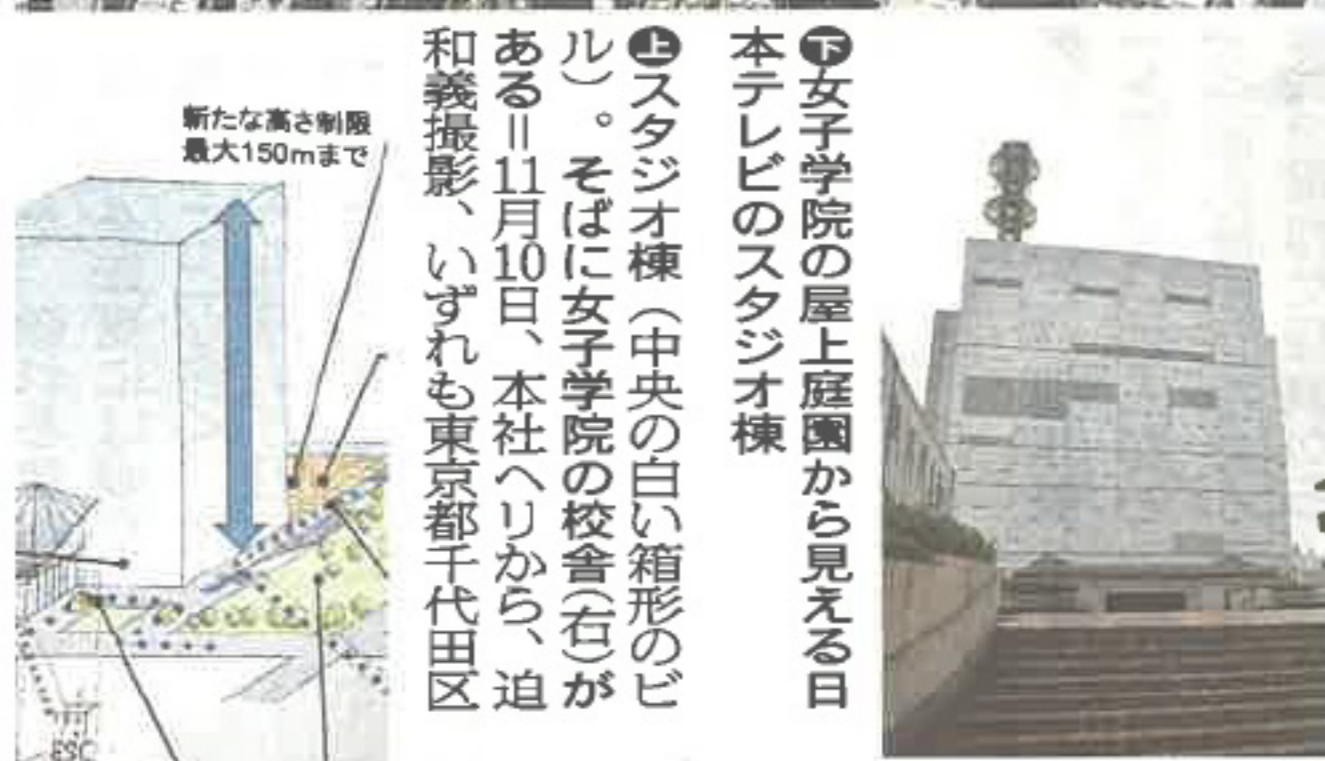
日本テレビ放送網(現日本テレビホールディングス)は1952年、国内初のテレビ放送免許を得し、東京都千代田区二番町の旧満鉄総裁邸を本社予定地として購入した。社屋の裏には築山、滝のある日本庭園と四阿が配された。

創業者の正力松太郎が接待に好んで使い、野外スタジオにも利用されてきた。「地域の住環境とも調和していた」とOBは言う。

日テレはその庭園をつぶし、さらに敷地を広げたところに2015年1月、高さ60階のスタジオ棟

を造る計画を明らかにした。驚いたのは、向かいの女子学院だった。女子御三家のひとつに数えられる名門中高校である。「かなり

圧迫感がありそうだったんです。それに女子校ですので、向かいの窓からの視線も気になります」と



最大150階の超高層ビルを明示した日本テレビの資料

事務長の本田真也(67)は言う。

計画地は、区の地区計画で高さ50階までに制限した地域だが、日テレは歩道など一定の公開空地を供出する代わりに規制を緩めて

もらう「総合設計」制度を活用し、10階余分に高くなった。屋上の鉄塔を含めると100階もある。女子学院は「文教地区が脅かされる」と東京都に建築紛争の調整を申し立てた。窓はふさいでもらえ

たが、20年12月に竣工したスタジオ棟は確かに圧迫感がある。

番町地区は町ごとに地区計画を設け、高さを22〜60階などと規制してきた。景観を変える巨大スタジオ棟は地域に不協和音を響かせた。しかも日テレは四番町で広範囲の用地買収を進めているうえ、

港区汐留に本社移転後も残してきた二番町の旧社屋も建て替えること

いう。「いったい、どんなことをお考えなのか、さっくばらんにかか

がおうと思いましたが」と、五番町の町会長を務める横山義文(64)。

近隣町会長が集められた。15年暮れ、準備会が開かれ、町

会長らを集めた「日テレ通りまちづくり委員会」を設けることと、区の外郭団体「まちみらい千代田」からアドバイザーを派遣してもらったことが決まった。

翌16年2月以降、ほぼ月1回のペースで委員会を開き、町会長ら

は、地下鉄麹町駅の番町口に昇降機を設置することや歩道の拡幅、

盆踊りができる広場の確保を求めた。「日テレにバリアフリーや広場などで地域貢献して頂くなら、ある程度高さを認めるのは必要でしょう」とアドバイザーは助言した。町会長の一人はそれを「誘

導」と受け止めた。「要は高いものを造りたいということですよ」

委員会は18年1月、「まちづくり方針(案)地域ルール編」をまとめ、「新しい高さ制限MAX150

mまで(現状制限の2.5倍)」と記した。委員会の提言を受け

て、区は3月、日テレと町会長、周辺の学校など関係者を交えた「日本テレビ通り沿道まちづくり協議会」を設け、議論を進めることにした。5月の協議会に日テレの

麹町再開発事務局が提出した資料には「新たな高さ制限最大150mまで」と明記されていた。

内容を知った千代田区議の小枝すみ子(58)は「60階しか建てられなかったところを150階にするの？」と驚いた。市民運動で知り

合った建築家の大橋智子(67)に早速連絡した。大橋は女子学院の卒業生だった。

◆次回は1月4日に掲載します。

(編集委員・大鹿清明) 敬称略